

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	成人看護学概論	学年時期	1年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師:臨床実務経験）				
科目目標	変動する社会生活に適応して生きている成人を対象とした成人看護の意義、目的、対象、役割機能について学び、健康問題への適切な対処に向けて必要な看護を理解できる。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	成人の定義、成人各期の特徴（身体的・精神的・社会的側面）成人各期の発達課題、グループワーク	講義 演習	専任教員	
2	2	グループワーク	演習	専任教員	
3	2	成人の生活と健康 保健・医療・福祉システム、健康維持増進、疾病予防	講義	専任教員	
4	2	成人に特有な健康問題の特徴（生活習慣に関するもの、生活ストレスに関連するもの、職業に関するもの、セクシュアリティに関連するもの）グループワーク	講義 演習	専任教員	
5	2	グループワーク	演習	専任教員	
6、7	4	成人の学習の特徴、健康レベルに対応した看護と学習支援プロセス、ヘルスプロモーション、エンパワーメント、自己効力感、セルフマネジメント、症状マネジメント、ストレスマネジメント、危機介入、障害受容モデル	講義	専任教員	
8	1	終了試験	試験	専任教員	
評価方法	筆記試験（100点満点）と講義、演習の出席状況、参加態度、課題提出の状況で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【1】成人看護学総論 医学書院 佐藤栄子：事例を通して学ぶ中範囲理論入門 日総研 国民衛生の動向：厚生労働統計協会				
参考文献					
備考					

分野	専門分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	成人看護学方法論Ⅰ（セルフケアの再獲得とセルフマネジメントに向けての看護）		学年時期	2年次 前期		
担当講師 (実務経験)	①脳卒中リハビリテーション認定看護師					
	②皮膚排泄ケア認定看護師					
	③慢性呼吸器疾患認定看護師					
	④糖尿病認定看護師					
科目目標	<p>1. 生活行動に障害のある対象の社会生活から受ける影響とその反応を理解し、QOL獲得向上のための観察力、判断力、看護援助の方法を理解できる。</p> <p>2. 生涯にわたる疾病コントロールが必要な対象の社会生活から受ける影響とその反応を理解し、QOL獲得の向上のための観察力、判断力看護援助の方法を理解できる。</p>					
回数	時間	授業内容			授業方法	担当講師
1	2	回復期にある患者（脳血管障害）とその家族の特徴（患者のニーズ）			講義	①
2	2	健康障害と疾病・生涯の受容、治療選択、意思決定支援、看護上のニーズ判別のためのアセスメント（アドボカシー、ノーマライゼーションの理念、障害受容理論）			講義	①
3	2	回復期にある患者への看護援助 生活行動自立、セルフケア獲得に向けた支援、症状マネジメント			講義	①
4	2	社会的資源の獲得への援助（退院支援、退院調整、多職種連携）			演習	①
5	2	回復期にある患者（排泄機能障害:大腸がん）のニーズ、看護上のニーズ判別のためのアセスメント（自己概念理論、ボディイメージ）			講義	②
6	2	セルフケア、自己管理を促進する看護（ストーマケア）			講義	②
7	2	社会的資源の獲得への援助、医療費助成制度の活用、サポートグループ、家族会の活用と支援			演習	②
8	1	中間試験			試験	①②
9	2	慢性期にある患者（内分泌機能障害：糖尿病）とその家族の特徴（患者のニーズ）			講義	④
10	2	健康障害と疾病の受容、看護上のニーズ判別のためのアセスメント（コンプライアンスとアドヒアランス、エンパワメント、自己効力感）、症状マネジメント			講義	④
11	2	慢性期にある患者への看護援助（生活指導、薬物療法）、多職種連携			講義	④
12	2	セルフケア獲得に向けた支援（血糖測定）			演習	④
13	2	慢性期（呼吸機能障害）にある患者の特徴、呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム			講義	③
14	2	呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント（病みの軌跡）、症状マネジメント			講義	③
15	2	呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ充足に向けた看護援助 在宅酸素療法（HOTの管理）、生活支援、退院支援			演習	③
16	1	終了試験			試験	③④
評価方法	筆記試験2回（各100点満点）の平均点と授業、演習の参加の状況で総合的に評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統看護講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【5】消化器【6】内分泌・代謝【7】脳・神経【2】呼吸器医学書院					
参考文献	系統看護学 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 佐藤栄子：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論 日総研 系統看護学講座 専門分野 成人看護学講座 医学書院					
備考						

分野	専門分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	成人看護学方法論Ⅱ（健康危機状況にある人の看護）		学年時期	2年次 前期		
担当講師 (実務経験)	①クリティカルケア特定認定看護師：臨床実務経験あり ②臨床看護師：臨床実務経験あり					
科目目標	1. 手術などの侵襲的治療、救命救急治療を受ける健康危機状況にある対象の心身の反応を理解し、観察力、判断力、看護援助の方法を理解できる。 2. 危機状況にある対象の家族に及ぼす影響とその反応を理解し、観察力、判断力、看護援助の方法を理解できる。					
回数	時間	授業内容			授業方法	担当講師
1	2	クリティカルケア看護とは クリティカルケアを必要とする患者の特徴			講義	①
2	2	クリティカルケア看護とチーム医療 クリティカルな患者の病態の理解と看護			講義	①
3	2	クリティカルな患者の病態の理解と看護			講義	①
4	2	危機状態にある患者・家族へのケア（危機介入）			講義	①
5	2	<事例：虚血性心疾患>救命救急治療（PCI）の看護			講義	①
6	4	<事例：心筋梗塞>クリティカルケア看護に必要な看護技術 胸痛を訴える患者の全身状態の観察と臨床判断 心電図モニターの装着と観察			演習	①
7						
8	1	中間試験			試験	①
9	2	身体侵襲を伴う治療（手術）を必要とする状況			講義	②
10	2	手術前の状態と看護			講義	②
11	2	手術中の状態と看護			講義	②
12	4	手術後の状態と看護、術後の退院支援、退院支援			講義	②
13						
14	2	手術を受ける患者の家族の心理とその対応			講義	②
15	2	<事例：胃癌>手術を必要とする成人に必要な看護技術 術直後、術後1日目の全身状態の観察方法と臨床判断			演習	②
16	1	終了試験			試験	②
評価方法	中間・終了試験の成績(合計100点満点)の平均点と講義・演習の参加、提出物で総合的に評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 よくわかる周手術期看護 学研 周術期看護学学習ワークブック メヂカルフレンド社					
参考文献	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 専門分野 成人看護学（3）循環器 （5）消化器 医学書院					
備考						

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	成人看護学方法論Ⅲ（終末期と緩和ケア）	学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	認定看護師（緩和ケア）				
科目目標	<p>1. 治療困難・終末期にある緩和ケアを必要とする対象の心身の反応を理解し、QOLの維持、向上のための観察力、判断力、看護援助の方法を理解できる。</p> <p>2. 治療困難・終末期にある緩和ケアを必要とする対象の家族に及ぼす影響とその反応を理解し、QOLの維持、向上のための観察力、判断力、看護援助の方法を理解できる。</p>				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	終末期・緩和医療、緩和ケアとは 緩和ケアを必要としている対象の理解 (がん、慢性心不全、慢性呼吸不全、難病)	講義	認定看護師	
2	2	緩和ケアにおけるコミュニケーション、チームアプローチ 倫理的課題（アドバンスケアプランニング、意思決定支援、治療中止や療養の場に移行する意思決定支援）	講義	認定看護師	
3	2	痛みについて、疼痛コントロール、疼痛マネジメント、麻薬管理	講義	認定看護師	
4	2	症状アセスメントとセルフマネジメント（臨床判断）	講義	認定看護師	
5	2	全人的苦痛のアセスメントと全人的ケアの実践	講義	認定看護師	
6	2	緩和ケアを必要とする人の家族に及ぼす影響とその反応、家族のケア	講義	認定看護師	
7	2	緩和ケアを必要としている人への看護技術 臨死期の看護（看取り、死後のケア）	演習	認定看護師	
8	1	終了試験	試験		
評価方法	終了試験の成績(100点満点)、講義への出席状況、参加態度、課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 がん看護 医学書院				
参考文献	系統看護学講座 専門分野 成人看護学（2） 成人看護学総論 医学書院				
備考					

分野	専門分野	単位数	1	時間数	20
授業科目	成人看護学方法論Ⅳ	学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師：臨床実務経験あり）				
科目目標	健康状態における観察、判断力、看護援助の方法を活用し、紙上事例を使って、看護過程の展開が理解できる。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	事例（周手術期：胃がん）病態生理、治療、看護	講義	専任教員	
2	2	アセスメント 情報の整理（ヘンダーソン看護過程）	講義演習	専任教員	
3	6	アセスメント 情報の解釈・分析 グループ討議	講義 演習	専任教員	
4					
5					
6	2	全体像、看護上の問題の明確化、グループ討議	演習	専任教員	
7	2	看護計画の立案	演習	専任教員	
8	2	日々の行動計画の立案,関連図作成、計画の修正	講義	専任教員	
9	2		演習	専任教員	
10	2	終了試験、まとめ	試験	専任教員	
評価方法	終了試験の成績(100点満点)、講義・演習への出席状況、参加態度、課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	秋葉広子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、ヌーベルヒロカワ2016 江崎フサ子他著：ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト第4版ヌーヴェルヒロカワ2013 系統看護学講座 専門分野 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 石塚睦子編著：よくわかる周手術期看護 学研				
参考文献	高木永子ほか：看護過程に沿った対症看護 第5班				
備考	既習の知識と新しく調べた知識を統合して、アセスメントすることができる。 事例を使って看護過程を展開することができる。				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	勤労者と看護	学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	①臨床看護師				
	②がん相談員				
	③MSW(両立支援コーディネーター)				
科目目標	勤労者の健康の調和をはかり、心身ともに健康で充実した職業生活が送れるように支援する活動内容が理解できる。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	勤労者を取り巻く環境（社会状況の変化、産業構造・労働環境の変化）、生活習慣病、職業性疾病、健康行動など	講義	①	
2	2	勤労者看護の役割、両立支援コーディネーターの役割、多職種連携、治療と仕事の両立支援の概要（がん分野、脳卒中分野、糖尿病分野、メンタルヘルス分野など）と必要性	講義	①	
3	2	治療と仕事の両立支援の現状（がん分野、脳卒中分野、糖尿病分野、メンタルヘルス分野など）	講義	③	
4	2	グループワーク：事例をもとに就労支援を検討	演習	③	
5	2	がん医療の現状と看護、がん治療と看護	講義	②	
6	2	がん患者の看護（がん患者の社会生活を送るうえでの苦痛のマネジメント）、がん患者の家族の特徴と看護（直面する課題、家族への支援）	講義	②	
7	2	がん患者の看護（がん看護の対象と場、がんサバイバーシップケア、社会資源の活用、就労継続支援・環境調整など）	講義	②	
8	1	終了試験	試験	①②③	
評価方法	終了試験の成績(100点満点)、講義への出席状況、参加態度、課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	医学書院：系統看護学講座 別巻 がん看護学、成人看護学概論 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 労働者健康安全機構：治療と仕事の両立コーディネーターマニュアル（労働者安全機構ホームページ参照）				
参考文献					
備考	企業見学は成人・老年看護学実習1で実施				